設計上の理念と考え

# 音楽ホールと震災メモリアルが一体となって、東北のためにできること

## 音楽と災害文化がつながり、生きる喜び・強さが高まる場

・音楽の響きは人の心をふるわせ勇気づけ、震災の記憶はさざ波のように心を揺り動かして人々のつながりを思い出させます。本提案では2つが波紋のように広がり、仙台から東北、世界の新しい文化的価値を生み出します。

## 過去に学び未来を創る、新たな都市文化の創造・発信の場

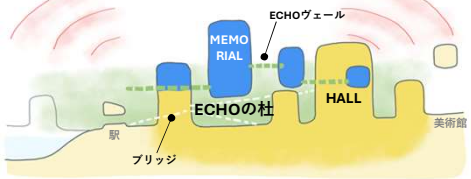
## 青葉山エリア全体を活性化するにぎわい・拠点機能の創出

・計画地は青葉山エリアの玄関口であり、様々なつながりを創出できる素晴らしい立地です。東西線を中心に施設のみならず人的ネットワークを活かした拠点をつくり、文化のネットワークを形成します。

## ECHO（2つの機能の相乗効果）を高める、ひろげる

・ECHOの杜に音楽ホール諸室と震災メモリアルが広がり、ひとつながりに融合した施設です。２つの機能へのアプローチは段階的に設えることで、多様な融合を生み出します。

・静かな震災メモリアルは上階から、にぎわいを生む音楽ホールは半地下からひろがる配置とします。ECHOヴェール（雲のような吸音する境界面）とブリッジが、状況や使い手に応じて2つの機能を伸縮・可変させ、柔軟性を高めます。




◇ECHOする杜で施設全体・まちをつなぐ断面ダイアグラム

設計を進める上で特に留意すること

# ひとり一人の活動の受け皿の集合体として 人々が共存し、交流が促進され響きあう空間

人 × 建物

## 環境に開かれた立ち寄りやすい建物／まちをつなぐECHOの杜

・まちのようなスケールの建物が連なる、だれもがふらっと入れる開かれた建物群です。

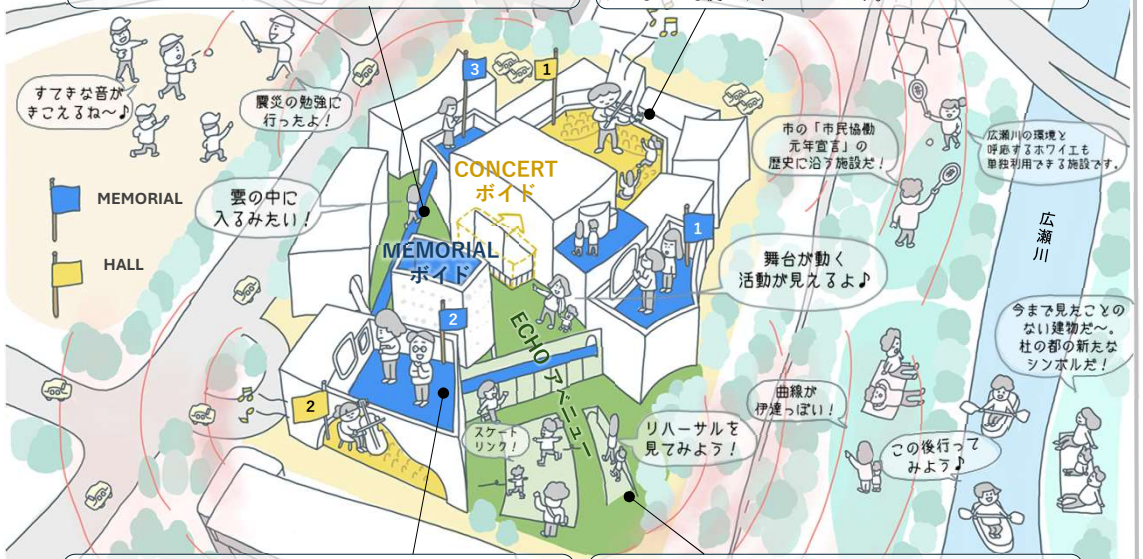
・対岸や仲の瀬橋、東西線から見ると、やわらかい影が射す曲面壁が重なり、方角や季節によってさまざまな見え方をします。

・近づくと、隙間であるECHOの杜が見えてきます。周辺と巧みにつながり、思い思いの時を過ごせる自然光あふれる空間です。

## 日常・非日常に合わせて可変する音楽ホール

・ECHOアベニューでは、CONCERTボイド（移動舞台）が、日常・非日常で響きあい、ECHOアベニューで転換する様子を表から見ることができます。また、リハーサルと公演の両方が活動として目に見える、表裏のない親しみやすい構成です。

・半地下の舞台レベルに音楽ホールの楽屋機能を集約し、半地下の練習室・リハーサル室へ駅前広場からアクセスできる、プロもアマも使いやすいホールです。




## 入口をひろげ、防災につなげる震災メモリアル

・震災メモリアルや災害文化への関心をひろげるために、ニュートラルな親しみやすい入口として映像と音を中心とした展示空間（メモリアルボイド）をECHOアベニューの中に下垂させ、入口として顔出しします。

・ゆっくりと思いを巡らせる、水面と空に囲まれたクワイエットスペースを上階に設けます。

・月命日などに行う震災アーカイブ活動や防災キャンプの啓発により、環境防災都市・仙台を発信します。

## 多様な市民の交流を促す駅前広場

・駅前広場は、五色沼の歴史を活かしたスケートやダンスなど屋外スポーツイベントも意識したメモリアルリンクを持つ、大きな屋根下空間です。キッチンカーなど車両の乗入れによって市民活動の利便性を高めます。

・ECHOアベニューに接続し、水辺のランドスケープを作り、駅のテラスとつながる、多方向に展開可能な結節点です。

・特別な時間である3月11日には追悼の気持ちを表現する追悼の広場となり、東西線からも見ることができます。

コスト縮減に関する提案

# 必要機能に的確に応える 豊富な経験と高い対話力のあるチーム

関係者 × 設計チーム

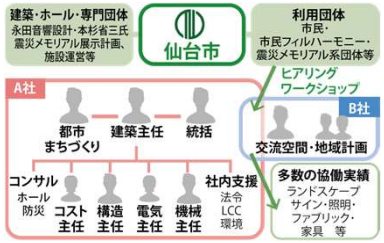
## 組織＋地元アトリエによる高い総合力

・音楽ホールや大規模複合施設の豊富な実績を有する組織事務所と仙台を拠点に東日本大震災の震災遺構メモリアル公園の設計を行ったアトリエ事務所のJVにより、高い相乗効果を発揮します。

・協力会社に経験豊富なホールコンサルを加え、ホール機能をより有意義なものとします。

・音楽/震災メモリアル/市民NPO/まつづくり等の関係団体と連携し、より市民にとって価値のある計画につなげます。

・市民ワークショップに積極的に関わる事で、建物完成後の使いやすさにつなげます。




◇建物完成まで品質を高め続ける担当チーム

## ホール経験者による要点を押さえたコスト管理

・2,000席規模の複数のホール設計経験者が担務し、移動舞台、舞台機構/音響/照明等、ホール建築におけるコストの重点項目について適切に管理します。

◇先を見据えたコスト管理の進め方

## イニシャル/ランニングコストを低減する環境・構造を統合した建築

| | イニシャルコストへの配慮 | ランニングコストへの配慮 光熱水費 | ランニングコストへの配慮 維持管理費 | 施設稼働率の向上 |
|---|---|---|---|---|
| ホール部分 | ・無駄のない適切規模・設備<br>・コンパクトな客席平面<br>・楽屋利用可能な会議室 | ・客席・ホワイエの居住域空調<br>・各階の空調・照明制御（大ホール）<br>・天井反射板ライトにLED<br>・Bxin Boxによる断熱性 | ・一人で運用可能な舞台機構・音響・照明等の制御方式<br>・単純水平移動舞台による電力代の削減 | ・大ホール・小ホール・リハーサル室・練習室の一体・複合使用により大規模なコンベンションなどに利用可能 |
| メモリアル | ・多様な利用形態に対応する展示室 | ・LEDによる展示照明<br>・高天井展示室に居住域空調 | ・市民ボランティアスタッフによる管理運営補助 | ・ふらっと立ち寄りやすい配置 |
| ECHOアベニュー | ・1階に集約配置したバリアフリーな計画 | ・太陽光パネルを組み込んだハイサイドライトによる自然換気窓を採用<br>・高天井部に居住域空調 | ・わかりやすい受付配置<br>・行きたい場所にすぐ行ける案内しやすい平面・サイン計画 | ・駅からつながる駅前広場との一体利用<br>・スケートリンクの設置 |
| 建物設備 | ・地下躯体の最小化（設備関係諸室は地上配置）<br>・残土量の最小化・免震による躯体減<br>・設備スペースの集約配置 | ・地中熱を利用した熱源とシステム<br>・LOW-E複層ガラスの採用<br>・雨水・井戸水の中水利用<br>・高効率設備機器の採用<br>・屋根・外壁の高断熱化<br>・4mの大庇による日射負荷低減 | ・凍害（終日日影）が少ない建物配置<br>・光媒体などのメンテナンスフリー技術による清掃コスト低減<br>・LED等による交換手間削減<br>・竣工後も省エネコミッションを実施し維持管理をサポート | ・新しい仙台のシンボルとなる施設<br>・広瀬川や仙台城を望む展望デッキ |
| 外構 | ・既存樹木の活用 | ・潅水設備の不要な地上部の植栽計画 | ・防草シートによる剪定管理、雑草管理のしやすい植栽計画 | ・市民花壇・市民の杜づくりなど市民参加の緑づくり |

将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

# しっかりした基本機能から拡張する フレキシブルな空間

竣工時 × 将来

## 対話を通した優先度の高い基本機能の整理

・仙台市、施設運営者等との対話を通して、ニーズの優先度を整理し、ベースとなる機能を確実に実現します。改修頻度を最小とする使いつくされる施設とします。

## 変わる部分/変わらない部分が明確な安全な構造

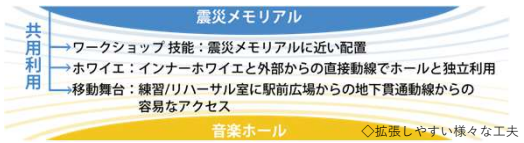
・点在する建物群の外周に耐震要素を集約的に配置し、変わらない部分として安全な建物を実現します。

・耐震要素に囲われた内部はフレキシブルに変更可能で、展示などのレイアウトにも柔軟に対応できます。

・地震の揺れを建物群が支える事で、交流ロビーの開放性や自由度も高めます。

・北側に青空駐車場を集約配置し、将来の増築用地とします。

## 分棟型を活かした共用できる機能の合理化・冗長性




## 市公共施設総合マネジメントプランへの対応

・遮音にも有効なRC造を活用と免震構造の採用により、計画保全年数80年を見据えた計画とします。

・PFI事業にも多数参画している設計者により、民間活力を導入しやすい施設整備を行います。